

(C) 支持柱両側が非耐力壁で、梁端周囲の加工が容易な場合。

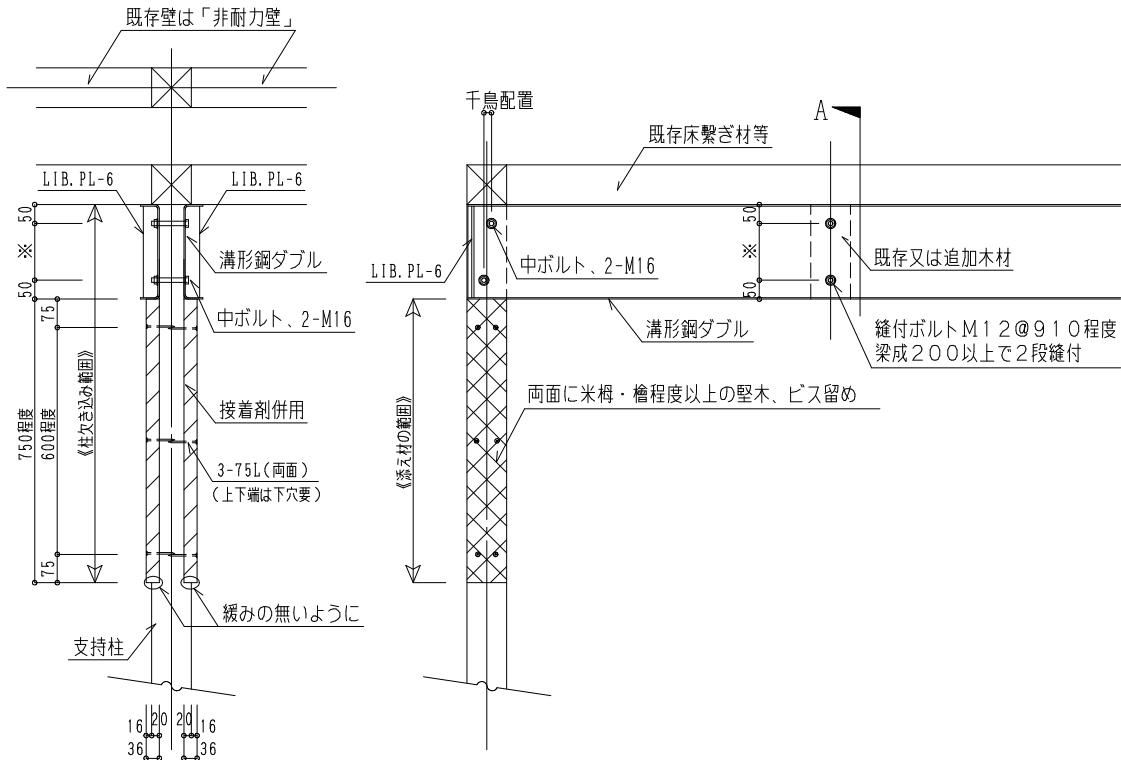
②補強鋼材の空きが支持柱サイズ未満の時

共通事項

特記事項

- 1、【添え材】：米栴、松、又はラワン等の堅木とし、接着剤併用のビス止めとする。ラワンについては防虫処理材を推奨します。
- 2、

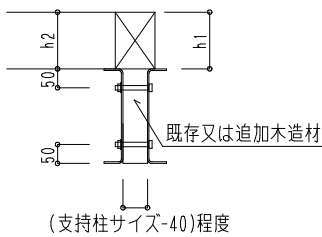
- 1、 補強鋼材同志の空き寸法は中間部でも同じになるよう、合わせること。
- 2、 支持柱への添え材は、ア36程度、幅：支持柱サイズ程度とする。
- 3、 補強鋼材端部の中ボルトはM16とし、その他はM12とする。また、支持柱柱頭に留め付ける中ボルトは適宜千鳥配置とすること。
- 4、 鋼材のフランジ幅は、50と75の2通りあるが、いずれの場合も鋼材端部に取り付けのRIB、PLの幅は38とする。
- 5、 ※の寸法は補強鋼材サイズに対応して決定すること。
- 6、 柱両面の欠き込みは合計で1/3以下を超える為、接着剤併用の添え材補強を兼ねる。



‘A’ SECTION 【補強鋼材上端の決定】：下図のように決定する。

床梁成：直交床梁と同じ

$$(h_1 = h_2)$$



床梁成：サイズ差あるとき
(床梁成下端に合わせる)

$$(h_1 > h_2)$$

